

阿南 ぶらりまち紀行 ～地域の輝き～

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

第114回



宝田コスモス会 (宝田町)

(写真撮影は、宝田幼稚園の教諭や園児の皆さんに協力していただきました)

「うす紅の秋桜(コスモス)が秋の日の何気ない陽溜まりに揺れている。」
 (作詞・作曲…さだ まさし)と歌謡曲にも歌われた、誰にも親しまれている花コスモス。花言葉は、調和・謙虚・乙女の真心などと、慎みぶかいことを好む日本人の気質に合っている。そんなすてきな花で地域を満たしたいと、「宝田コスモス会」の皆さんが、稲作が終わった耕作地をコスモス畑にする活動に取り組んでいる。

活動は平成15年から継続していて、まちの景観美化のため、そして道行く人々の心を癒し季節を感じてほしいと始めた会員は徐々に増え、現在では23人の協力を得て、稲刈りが終わった耕作地約220アールがコスモス畑になる。9月初旬にトラクターで耕して種をまくと、発芽まで20日ほどかかる。11月の中旬頃には背丈が30〜40センチくらいになった赤や白、ピンク色のかわいらしい花が咲き、霜が降りるまで約2カ月間楽しむことができる。ハート型や迷路型などに整形することもあり、おとしは富士山の世界



遺産登録にちなみ富士山の形、オリンピックの開催される年は五輪マークにしたりにして、楽しみながら活動している。

「このコスモス畑は、町内外の人々の散歩コースになっていて、宝田公民館で写真コンテストやウオーキングなどを開催しています。子どもたちには通学路や学校から見えるコスモスで心和ませ、健やかに育ってほしいです」と会長の仁木利昭さん(77歳)は話す。

コスモスの種をまく時期が台風シーズンにあたるため大雨や強風で傷んでしまい、思ったように育たないことも。また、花が咲いても霜に弱く、枯れてしまうこともある。今年は特に天候不順でなかなか発芽せず、みんなをやきもきさせたが、見事に咲いてくれた。会員の皆さんは、「毎年、たくさんの方が楽しみにしてくれるのが励みになっています。宝田町の秋の風物詩として、できる限り続けていきたいですね」と話す。花言葉が示すように子どもから高齢者まで交流の輪、人の輪を広げることにより一役買っている。一輪のコスモスの花が人々をつないでいるようだ。